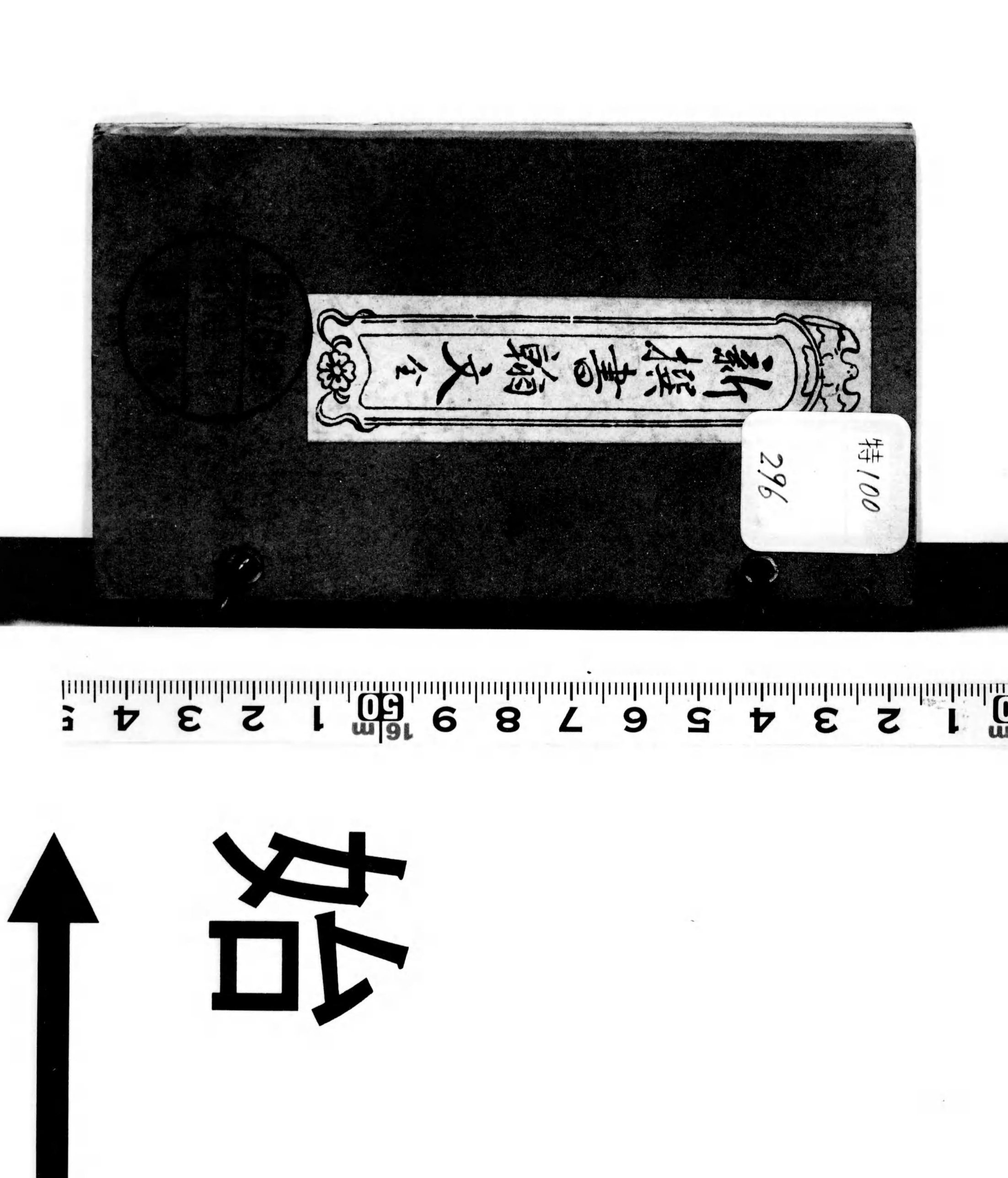

第
特100
296

特107
296

田竹 中圖 三省 先生 先生 編書畫

習字雜用 女子文の可貴富利

實用習 字書翰文

男女 實用習 字はがき文

習字 兼用 三體書翰文

行草 習字 手紙之文

女子 習字 四季手紙之書方

書翰之書方

書方 練習 商業書翰文

習字 新撰書翰文

實用 習字 女子書翰文

習字 日用書翰文

習字 大正 書翰文

習字 大正 手紙の文

書方 習字 實用手紙の文

練習 習字 行草書翰文

女子 書方 一筆手紙の文

大正 三體手紙の文

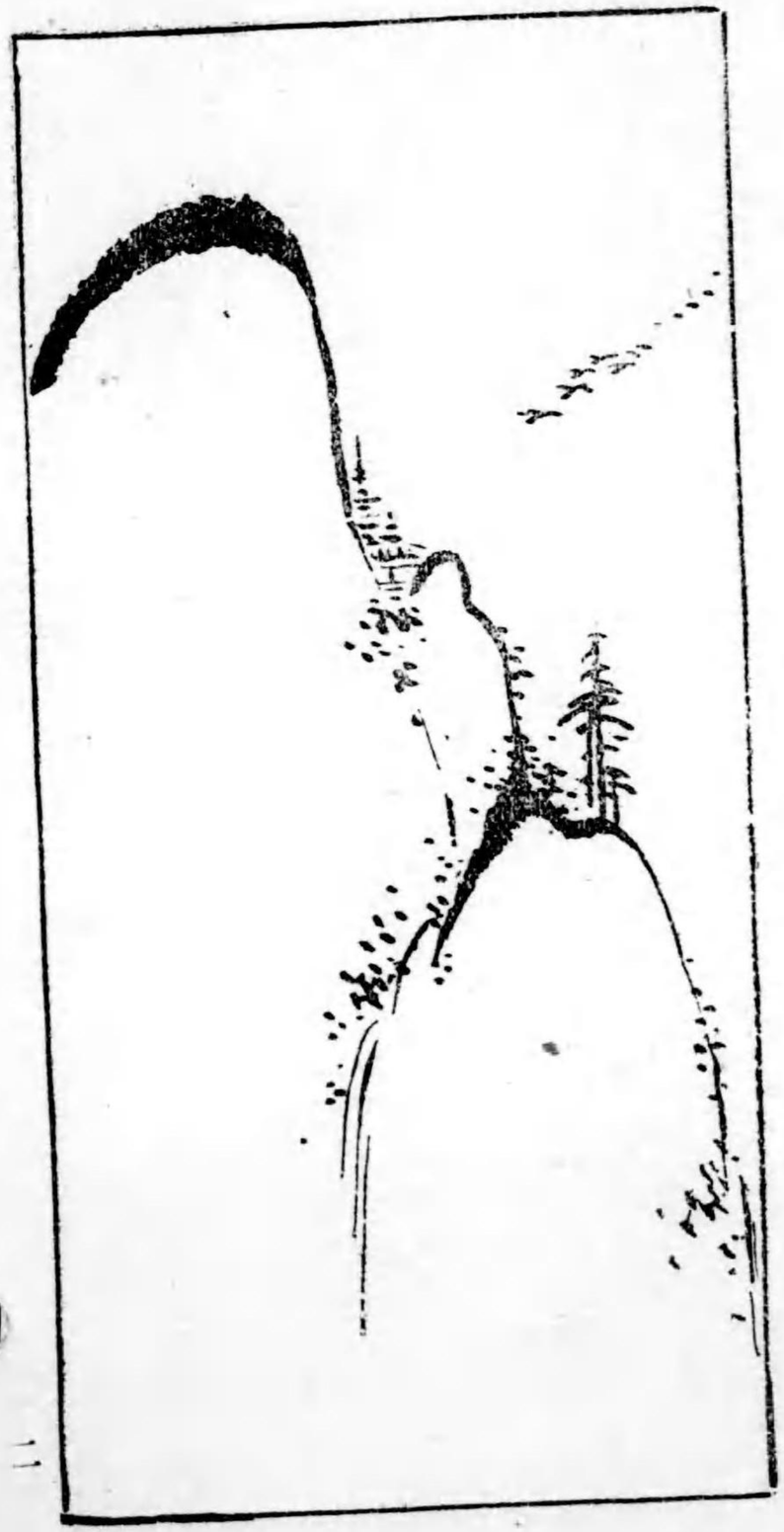
書方 兼用 新書翰文

新撰 習字 速成手紙の文

書方 習字 一筆書翰文

牛紙石版印刷和装全一册

各定價金四拾錢各郵税金四錢



新撰書翰文

年賀狀

新年之部

慶賀

畢三省編書

伸納之事先以下
當事會之清穆
超然遊于千仞

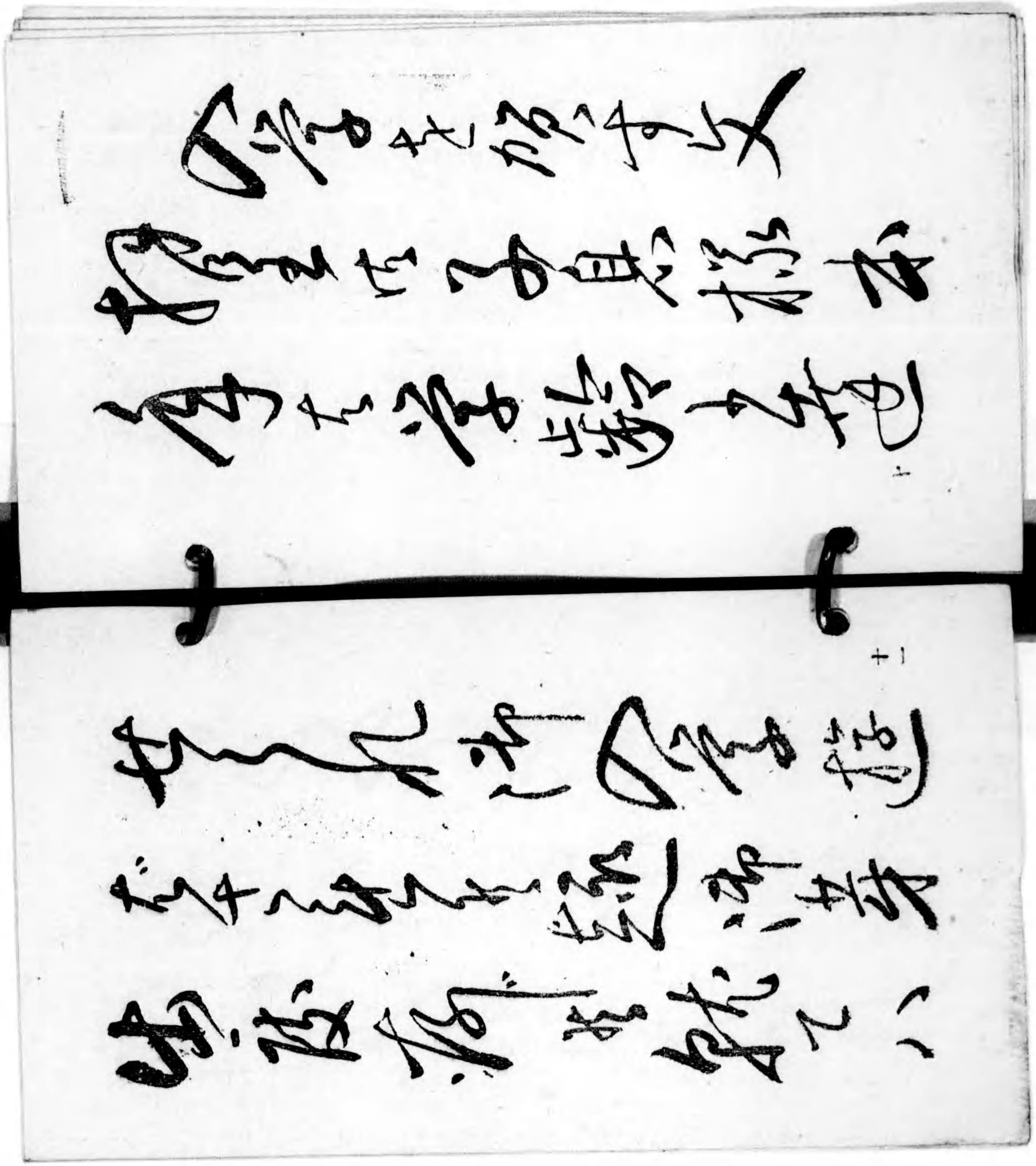
其所恭賀一年
星霜諸家一同
共享於加年佳會

悼なる御体意
下さる段を拝受
奉申上候

御懇情不
奥有御礼奉謝之
奉存候

年若くして学問厚
く道の程度高ひ上代
先王の年始の祝

詞中述懐を永
場合時を朝に
石檀堂



何ぞ法律の中に存
し夜毒を飲ませ
其の死体を地上に

置き市井を調べ
難く甚だ相違の点
あり不断用心
怠り

是は住吉
だ孝行者
金を以て

若旦那の笑納下され
度々祖母様
迷惑の笑顔賜ま

王於是由中出
先生御之為六
の工夫なり

辛巳歲祝文

拙者法令具恭孫多
年之法精勵空之

かゝる接觸に成
績を以て此度法
卒業遂ぐるを

其由新聞紙上に
掲げて報知申
候名譽の事迄

賀よ耐えて
然れども
悦遥家孝行
二十

別送ニ
雅落なる
の寸志
二十一

曾下さる段芳

婚姻を賀す文

謹呈御子息文雄

様並貴嬢

小松氏の令嬢

何子様と首尾能く
御結婚遊ばさるる
由幾久しき御慶び

御祝儀
為だ御祥の品小
生は法の即造

小家函中ニ入れ進
呈仕候間受納
下さるべし満悦

びのこ芋数具
金を賜ふ文
相成武士様に

無沙門の慈相
承い来人様の徳
為祝様方御満

悦ん程嘸十万人の家
中上げ就て
取の祝意を表し

夜粗酒壺携無
量仕事無暫日
除隊式賀文

相成義務の以外
何活何事中諜
差在なく法規に

上京生活に倦て今
息子に会ふ時日を
以て法隆寺を辞

今宵生家の
上京の夢を破る音
徒に明日の早き夢

の様如論日昭和
十五年迄だ一度
家老様
いと奈人様

の時家老年一と月
一日で御分と永年
男子い義一迄で

中とい家く
中上代著原の形
墨を定い莊屋本

形行特新茅の上
ゆ与業法夫貴の
趣詞陸名答の法

事弾正御禮紙
を免遣す事を許
小授事也 仍一信

御健勝珍重 仍
由重ゝ御用出来
次第之封書同

孫稱の有るを以て
以の才志に出でず
人様世に移る

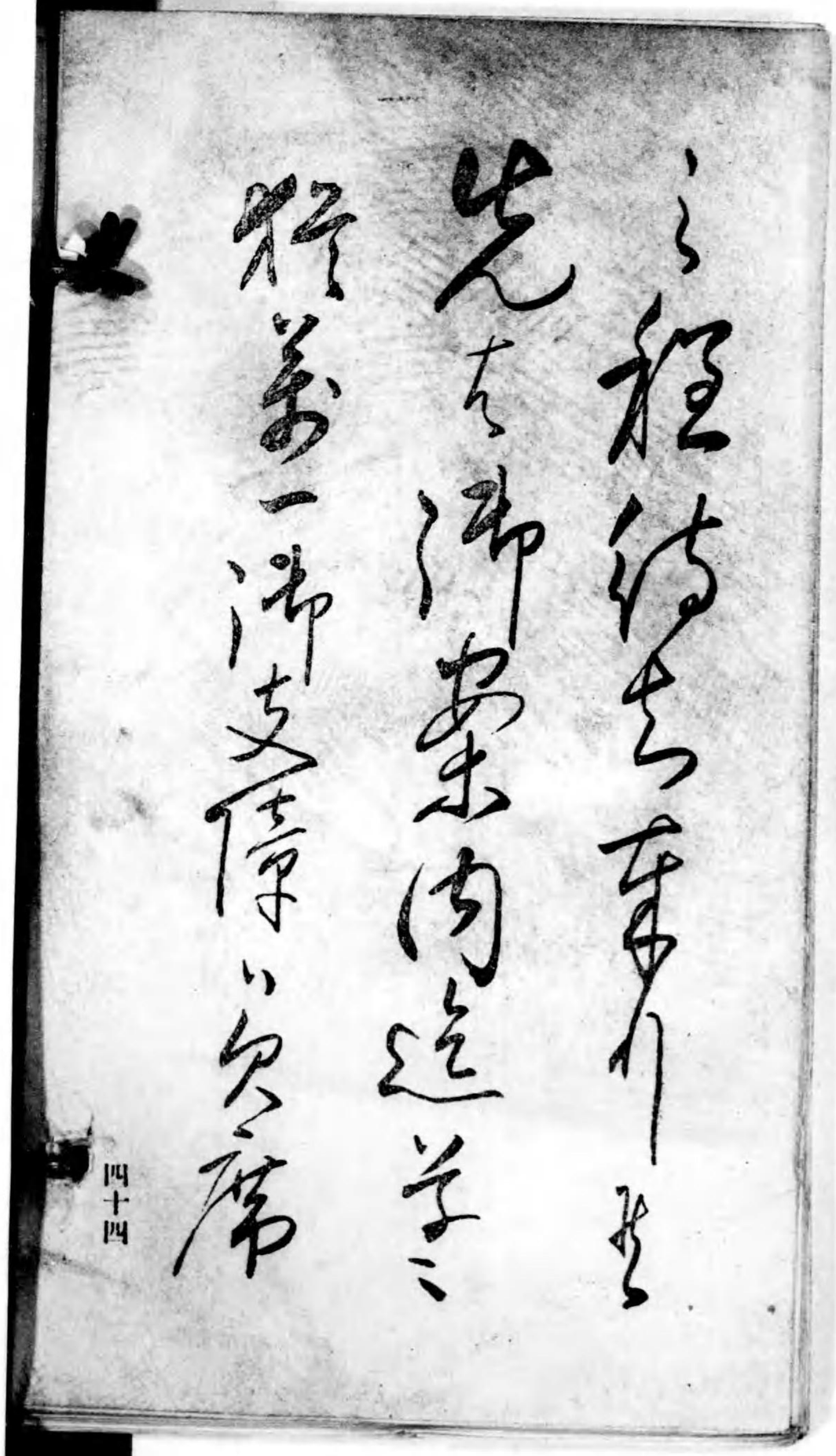
先考御拾遺
歌集

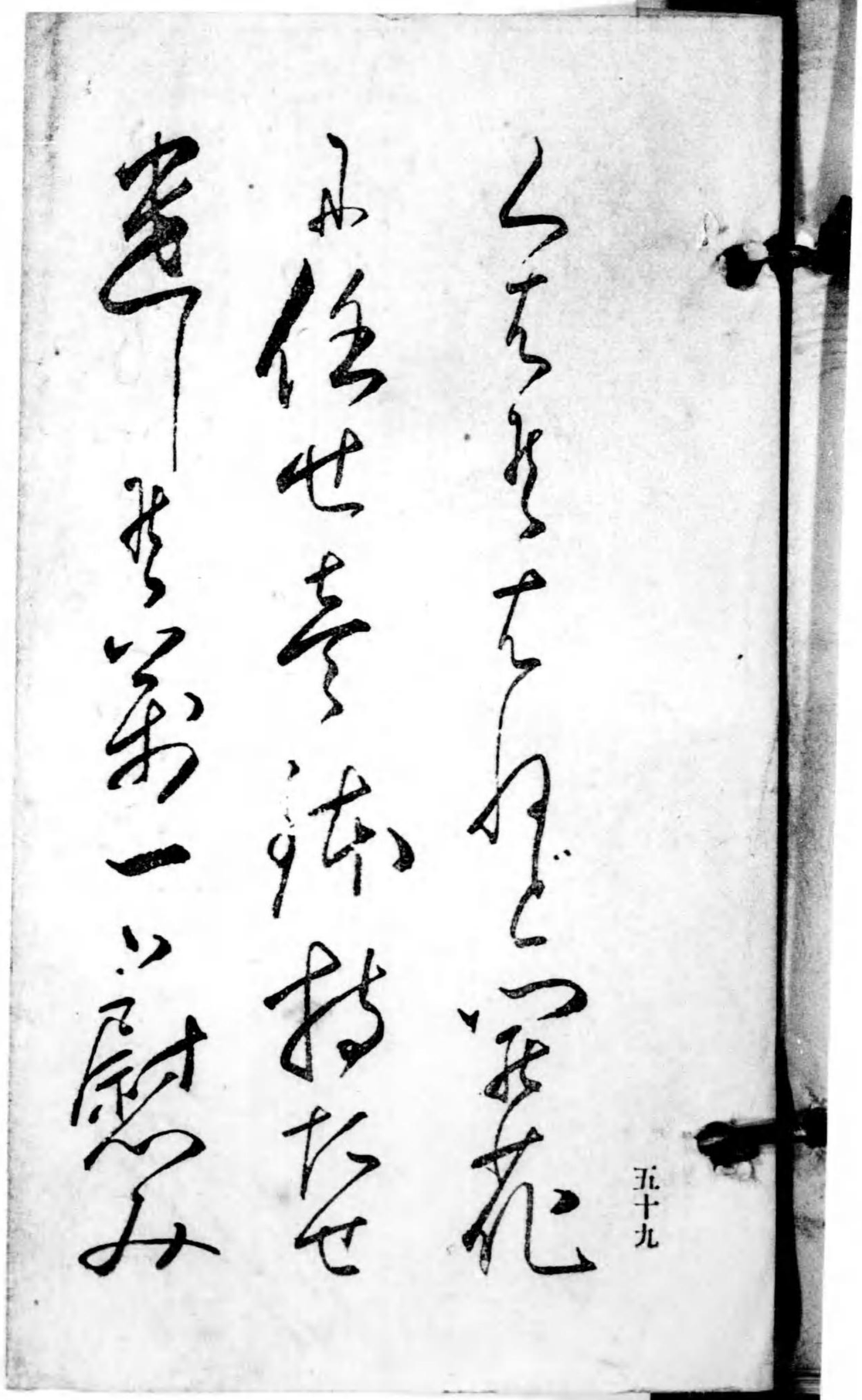
富人常に招く文

拜啓来る何日仰せ
の通り来樵に於て
新年を富士山麓に

迎ふ付義傳録
合せ不さる水浪
三時に市先来

欠





欠

[illegible]

柴菴文

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

爲だ程少人うの和なの
ら歩兵管御禮うら
即迄お呈上仕り候

何も春を待ちて
中越ぶくれ無き
出京を報ずる文

[illegible]
日高地後御地へ上
京致すべきと存候

外出之上付御承知
下さるべく何卒
上京之程
[illegible]

いと高貴なる仰ぎの蔭
ゆえ管領義家の家
引右衛門尉先生

如斯の二つ頼首
悔みの文
相国沸徳毎ゝ公

寒冰は春の
新春を長い冬籠
春で冬今

朝の庭に青寒咲て
鶯や有生先頃
いつぞ春の節

今八年を
経たる元年
分まで八百八異人の

百年五の大限さえ
を見遂ずて仰を
ゐ世願るのい元素

[illegible]を問ひ
今夏夢の如くして
何ぞ也上仆[illegible]

なく時[illegible]は悲傷
[illegible]程也[illegible]
上仆[illegible]
[illegible]使ひ

是以法華經の次
第なるを封香
華料法寶供へ

御供へ下さる也
敬具

薬師寺合せの文

聖學無[illegible]先
頃[illegible]御子息孫
皆上京中[illegible]

[illegible]滯在中
[illegible]又[illegible]何不
[illegible]

身為ずつ御知
らせの程願上奉
度存ぜ

在宿をたふ文
奉賜候為奉仕中
萬世ゝ抜ゝ揮

面之上爲尊卑長
幼儀出乘昭子
奔晉時適于乘黑

使之乘官何來
用刻適在宿下
乘黑以乘

上代より
留守を頼む文
小生儀長崎の

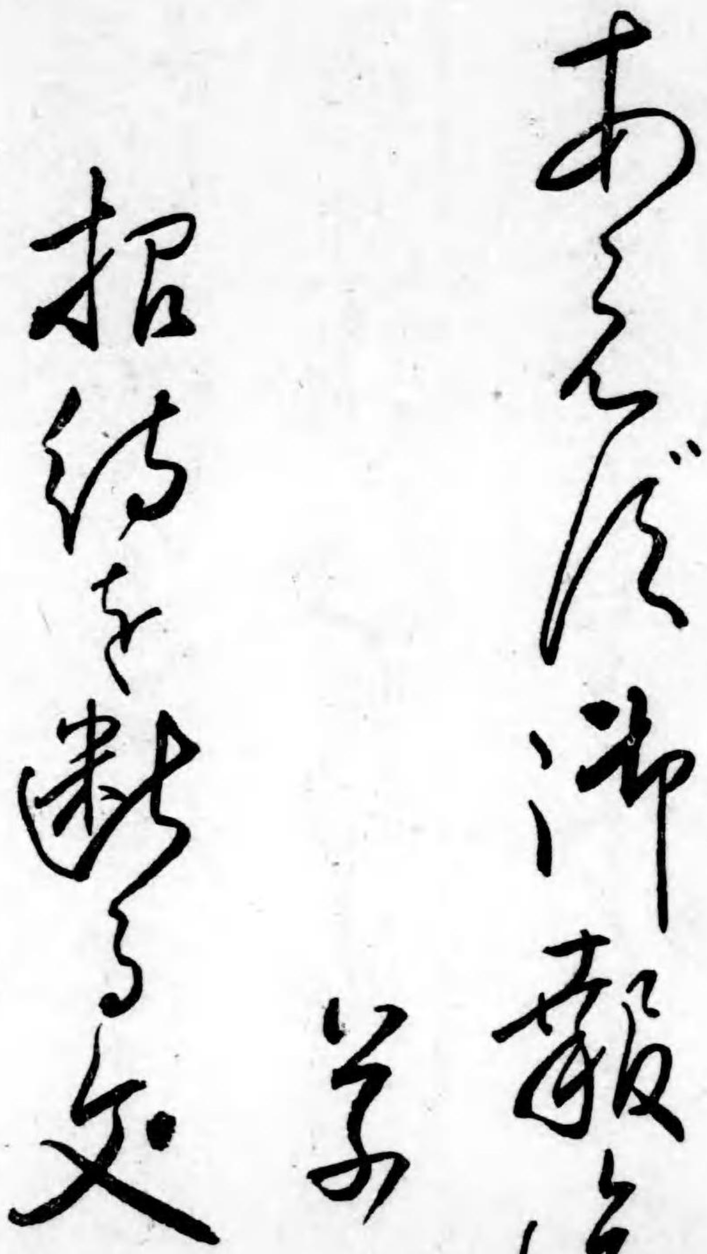
用事出来只今
出發仕候不在中
之儀何分御配意

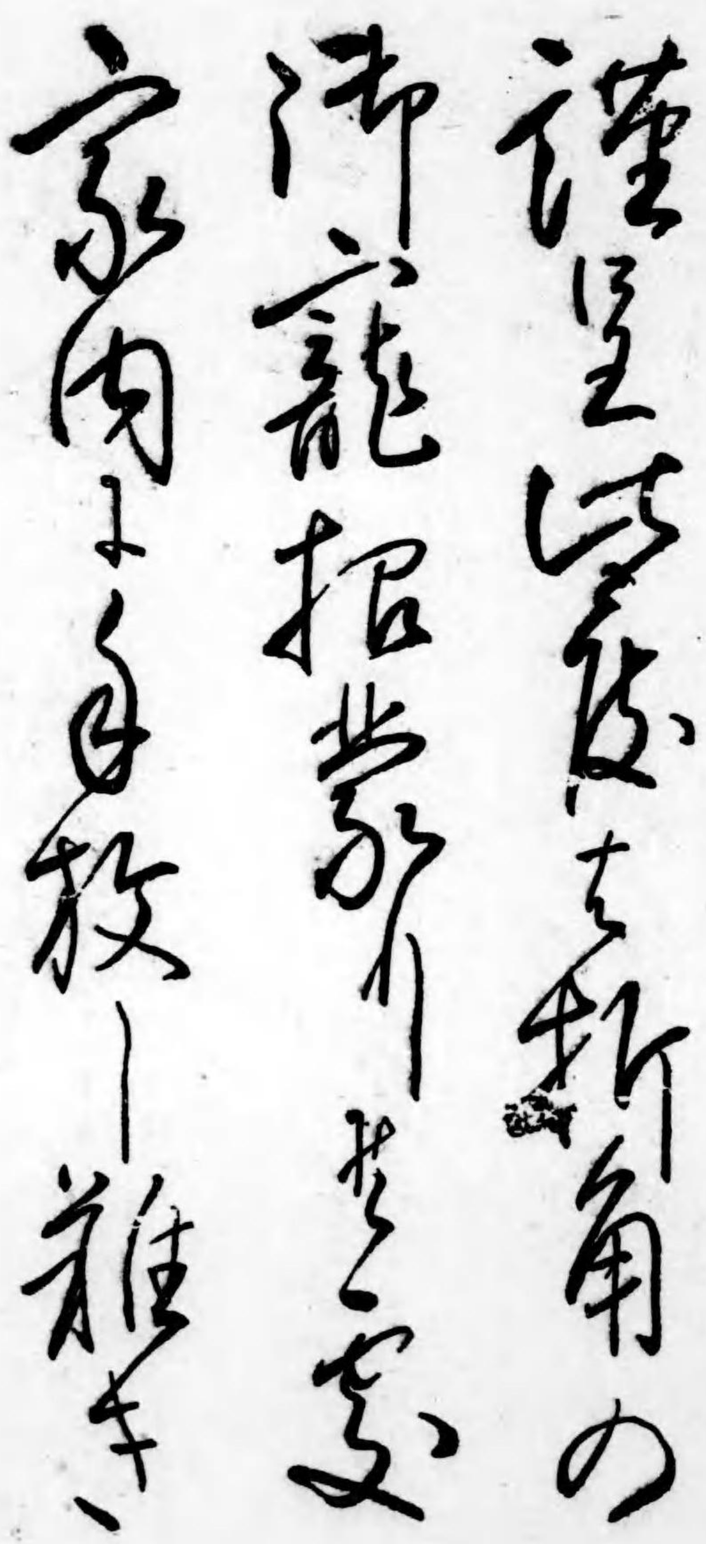
下さるを以て滞在を
臺閣留任の御意定まる
迄先づ出張ひめて学ぶ

帰宅報告の文
謹呈す永く多在来
何のと陛御慰懇と奬

り難き謝し奉り
渝く用高み時和
ゆるしたまはんことを

御家意下さる故
学問相扇御禅市
上ぐくまつる所





病人出來詢問遂慨
玉樓人去杳難依
永恩寬恕祈尔等

年賀狀

新年の御慶謹で申納め候先以て尊堂
愈々御清穆御超歳遊ばされ候段恭賀
し奉り候降て拙家一同無異加年仕候
間憚ながら御休意下され度候猶客年

中は申上げ様なき御懇情に與り洵に
忝く謝し奉り候本年も何卒相變らず
御厚誼の程希上げ奉り候先は年始の
御祝詞申述度餘は永陽の時を期し候
恐惶謹言

入學を賀す文

拜呈御子息様本年は學齡に達せられ
御入學遊ばされ候趣御目出度存じ候
就ては何ぞ御祝ひ申上度存じ候へ共
御承知の如き土地にて是と申す品も

調へ難く甚粗布ながら御不斷用御袴
になり御仕立て下さらば幸ひと存じ
別包を以て差上げ候間御笑納下され
度候祖母より近き御寫眞賜はりたき
由申出候先は御よろこびのみ草々

卒業を祝す文

拜白御令息様多年の御精勵空しから
ず拔群の御成蹟を以て此度御卒業遊
ばされ候由新聞紙上に依て拜承洵に
御名譽の御事慶賀に耐へず候貴下始

め御一同様の御滿悦遙察奉り候別送
の品甚以輕薄ながら祝意の寸志に候
間御笑留下され度候　草々頓首

婚姻を賀す文

謹呈御子息文雄様御事此度良媒に依

り某氏の令孃何子様と首尾能く御結
婚遊ばされ候由幾久しき御慶び涯り
なく申納め候甚だ心許りの品に候へ
共御祝の印迄に別函中の品送呈仕候
間御受納下され度先は御悦びのみ草

〳〵敬具

入營を賀す文

拜啓武夫様御事愈〳〵御入營の趣拜承御本人様は勿論御兩親様方御滿悅の程嘸こそ御察し申上げ候就ては聊か祝

意を表し度粗酒一樽進呈仕り候頓首

除隊を賀す文

拜啓其後の御無沙汰何共申譯御座なく御詫び申上候偖て御令息様には愈昨日を以て御除隊之趣き御入營眞の

先頃の様に覺へしに過ぎ往く月日の早さ夢の様勿論日々御待ち遊ばし居られ候御兩老様御本人様の此處半年一月一日は隨分と永き思ひに御暮し遊ばされ候事と御察し申上候仄かに

承り候へば御在營中品行精勤等の上から數々御受賞の趣洵に御名譽の御事殊に御禮軀も御見違へ申す許に發達せられ一倍御健勝に成られし由重々御目出度次第茲に封入候目錄聊な

がら御悦ひの寸意に候間御本人様へ
呈せられ度先は御悦び迄敬具

宴會に招く文

拝啓來る何日何年の通り某樓に於て
新年宴會相催し候に付萬障御繰合せ

下され午後三時より御光來之程待ち
奉り候先は御案内迄　敬具

猶萬一御支障御欠席の場合には御
一報下され度願ひ上げ候

結婚披露に招く文

謹啓野生婚儀の際は壯麗なる御祝物を忝く致し千萬嗚謝し奉り候偖て新婦御親付願ひ旁一献呈し度候に付來る何日午後五時より御令閨御同伴拙宅迄御光臨下され度偏に願ひ上げ奉

り候先は御案内迄　敬具

寒氣見舞の文

極寒洵に堪へ難き折柄御一同愈御健勝の段抃賀此事に候偖て此品至て輕少に候へ共聊か寒さ御見舞の印迄に

送呈仕候間御莞受下され度猶吳々御
厭ひの儀祈り上げ候　敬具

安否を問ふ文

拜呈其後は何かと取り紛れ非常の御
無沙汰申上げ候處皆様如何居らせら

れ候や兎角世間病人多き様聞き及び
候折柄御起居之程御案じ申上げ候先
は御安否御伺ひのみ　草々

草花を贈る文

此の花は當年始めて試み候物流行に

遲れ御珍らしくは候はねど開花に任せ壹鉢待たせ遺はし候萬一御慰みともならば幸甚

歲暮の文

今年も早や數へ日と相成り候御多忙

嘸かし御察し申上げ候例に依り甚だ輕少之品ながら歲暮御禮の印迄に呈上仕り候何れ春を待ちて申述ぶべく候　匆々

出京を報ずる文

前略小生事來る何日當地發御地へ上
京致す事と相成り候に付御承知下さ
れ度何れ上京の上は種々御高配を仰
ぐ筈に候間宜敷御承引相願ひ候先は
右御報のみ頓首

悔みの文

拜啓御祖母の公突然御發病の趣承り
直ちに御見舞にと存じ居候處今朝の
御訃音實以て驚き入り候先頃御出で
下され候節今は年も忘れ死をも忘れ

此の分にては百は愚か百二十五の大隈さんを見送るなぞ仰せられ頗るの御元氣にて候ひしを洵に今更夢の如くにて何とも申上げ様なく皆様御愁傷の程も御察し申上げ候甚だ使ひを

以て御無禮の次第ながら別封香華料御靈前へ御供へ下され度候　敬具

宿所問合せの文

拜呈承り候得ば先頃より御子息様御上京中との事當時猶御滯在中にや又

御宿所は何れに候や至急御手數ながら御知らせの程願ひ上げ候　草々

在宿を乞ふ文

前略御多忙中申兼候へ共少々拜面の上にて御尋ね申上げ度儀出來明日午

前九時迄に參堂仕るべく候間何卒同刻迄御在宿下され度此段御願ひ申上げ候　草々

留守を賴む文

小生事俄かに上京の用事出來只今よ

り出發候に付不在中之處何分御配意
下され度滯在は壹週間位の豫定に候
先は御願ひのみ草々

歸宅報知の文

拜呈永々の不在中何かと御配慮に與

り難有謝し奉り候漸く用濟み昨夜歸
宅候間憚ながら御安心下され度其内
拜眉御禮申上ぐべく候へども取りあ
へず御報迄　草々

招待を斷る文

謹呈此度は折角の御寵招蒙り候處家
内に手放し難き病人出來洵に遺憾至
極に候へ共御斷り仕り候不悪御寛恕
祈り候草々

完

田中三省先生編書

カード式習字帖
書翰書方漢字くづし
變体いろは帖
實業書翰文
三體千字文
新撰書翰文
女子の手紙
各冊箱入美本

大正六年九月一日印刷
大正六年九月六日發行　（定價二十五錢）

編書者　田中三省
東京市淺草區茅町一丁目十二番地

發行者　菅谷與吉
東京市神田區表神保町十番地

印刷者　今成温平
東京市淺草區茅町一丁目十二番地

發行所　日吉堂本店
電話下谷六五四二番
振替東京二五二六七番

（不許復製）

終